

山行報告書

山行報告者：加藤

山域・山名：赤岳（ハケ岳）（2,899m）		（長野県茅野市）
入山日又は期間：平成31年1月12日（土）～13日（日）（1泊2日）		
プラン担当者 正：鈴木		
参加者	L：鈴木 SL：今田 報：佐藤ゆ 記：加藤	
	男 4 名、女 2 名、計 6 名	
天候：両日共に快晴、微風 12日夕～夜半過ぎに小雪 （13日赤岳山頂から権現岳・中央アルプス→）		
1月12日 （土）	集合時間：午前6：10 集合場所：大宮駅西口パチンコことぶき前 6:30 大宮発、桶川北本 IC より圏央道・中央道経由 諏訪南 IC 下車 9:00 美濃戸口 P 着、9:36 美濃戸口出発～10:39 美濃戸山荘着 休憩～12:25 中ノ行者小屋跡～13:40 行者小屋着、受付、アイゼンのチェック、テントで懇談会（小屋/17:30 夕食、20 時頃消灯）（行動4h）標高差+850m	
1月13日 （日）	（小屋/5:30 弁当朝食）6:39 行者小屋出発～6:49 阿弥陀岳分岐～7:47 文三郎尾根分岐～8:10 赤岳山頂着～8:45 赤岳頂上山荘～9:17 赤岳展望荘～9:30 地蔵の頭～10:07 行者小屋着、ザック回収、テント撤収～12:13 中ノ行者小屋跡～13:32 美濃戸山荘着、休憩～14:45 美濃戸口 P 着 （行動8h）標高差+549m、-1,399m もみの湯で立寄り入浴、16:30 頃出発→中央道・圏央道経由で大宮方面へ、各車で解散（19:00 頃）	
装備と食糧	共同装備：8mm×30mロープ、スコップ2、会所有5テント、竹ペグ、ガス式（寒冷地用）2台、コッヘル1、お玉1、ツェルト4、雪入用大型ポリ袋、GPS、小槌	
	共同食：1/12 夕食（テント泊、鍋具材/鈴木） 車提供者：今田、斎藤	
個人装備：ヘッドランプ、防寒衣、コンパス、地図、替衣類、テルモス、ポリ水筒、笛、帽子（目出帽も）、グローブ（厚手と薄手）、ゴーグル、スパッツ、ストック、ヘルメット、ピッケル（リーシュ付き）、チェンスパイク（林道用任意）、10～12 アイゼン、セルフピレー式（簡易ハーネス、環付きカラビナ1、スリング2～3本）、アタックザック、お風呂セット テン泊の方：厳冬期用シュラフ、シュラフカバー、エアマット、銀マット、枕、テントブーツ、鍋用小鉢、箸 個人食：各自2～3食、行動食、お酒・おつまみは任意で （テント泊：鈴木、今田、斎藤、小屋泊：金澤、佐藤ゆ、加藤）		

2日にわたって最高の晴天に恵まれた。

往きの道路状況は連休初日とは思えないほどスムーズで、むこうの空が白々と明け始めたかと思うともう右に八ヶ岳の広い裳裾が光り、左から甲斐駒が肩を怒らせて姿を現した。山々に圧倒されているうちに、間もなく予定よりも早く駐車場に到着。山麓はほとんど積雪もなく、雪解けの季節のような日差しと青空のもと、美濃戸口の駐車場を出発した。

小一時間も歩き美濃戸山荘に着く頃は一面の銀世界が広がり、チェーンスパイク等各自準備を整える。道は踏まれて雪がよく締まっており、ところどころ凍結箇所があったものの順調なペースで進んだ。さすがに外気は冷えていたが乾燥しており、樹林の中はほぼ無風だったため歩いていると汗が流れた。汗を吸った帽子が凍っていた。

およそ4時間後、行者小屋に到着。小屋の前にはもうすでにテント村が色鮮やかに雪に映えていて、たくさんの登山者が行き来していた。小屋のすぐ裏には赤岳・横岳の峰が覆いかぶさり、バックには突き抜けるような青。稜線の際が冴えに冴えていた。

受付を済ませ、小屋とテントに分かれる。小屋はストーブがたかれ、こたつまであり、異次元の空間だった。翌日の準備を終え、小腹を満たし、こたつにあたって臍抜けになった。夕方はテントで懇談会。気が付くと陽が落ち、小雪がちらついていた。一気に冷えてきた。夕食後、外は-11度。

翌朝、小屋泊3名は5時には起床し、暗がりの食堂でヘッドライトで弁当をかきこみ、急いで支度をして外へ出ると、満天の星空のもと、テント泊チームの方々はすでに出発の体制が整っていた。雪はやんで、まだ暗い中、驚くほどたくさんの登山者たちが外で準備をしていた。いやがおうにも気持ちが高揚してきた。

登り始めてすぐに太陽が登ってくる気配がした。朝日に赤く染まる雪山が見たくて今回楽しみにしていたのだが、残念なことに、筆者のゴーグルのレンズが赤色だったために（赤色ゴーグルを使ったのは初めてだった）、一人だけ昼を過ぎてもモルゲンロートに感極まり続けていたことが後で発覚した。

昨日の片栗粉状の雪がそのまま凍ったような雪質で、アイゼンの歯がギュウギュウ食い込んだ。山頂直下は風が強く、フードをかぶっていないと後頭部がじんじんとした。山頂は狭く、そこでたくさんの人が写真を撮っていた。雲海の向こうに富士山、中央・北アルプスの真っ白な峰々までくっきり見え、中でも御岳山の大きさが圧巻だった。こちらには甲斐駒、北岳、仙丈、手前に鳳凰三山。オベリスクまではっきり見えた。

帰りは地蔵の頭を経由して地蔵尾根を下り、10時過ぎには行者小屋に着いた。テントを撤収し、今一度気を引き締めて下山を始める。木漏れ日の樹林を抜け、山（その他もろもろ）談議に花がさく咲く…美濃戸の駐車場に着くころには他の登山者も続々と下山してきており、みな一様に晴れ晴れとしたい顔をしていた。

もみの湯で汗を流し、左手に八ヶ岳、右手に北岳・甲斐駒に見送られながら、帰路についた。帰りの道も道路状況は驚くほど良好で、一度も渋滞にあうことはなかった。

リーダーの鈴木様はじめ、参加されました皆様、ありがとうございました。